

診る場所、看取る場所 ～医療・介護支え手不足時代の地域包括ケアシステムを考える～

特別養護老人ホームからの報告



社会福祉法人十日町福祉会 高齢事業部 事業部長 田中眞由美

社会福祉法人

十日町福祉会

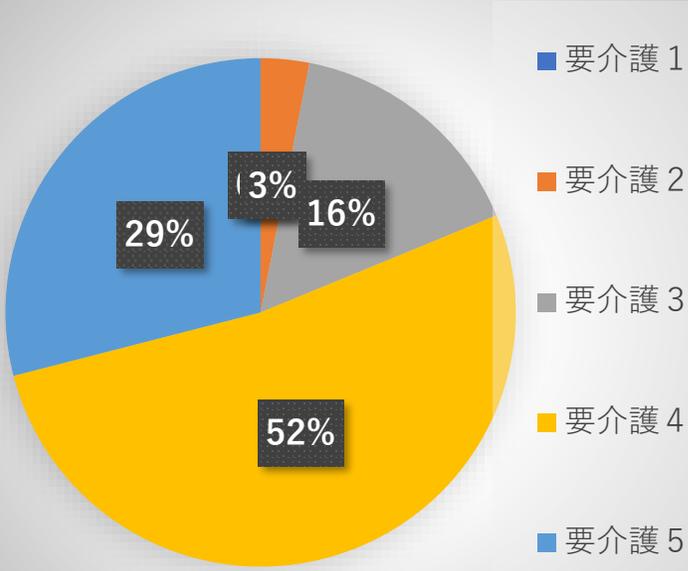


経営理念 十日町福祉会は、社会福祉事業を通じ、多様な福祉課題に積極的かつ主体的に取り組み、地域社会の豊かな発展と充実に貢献します。

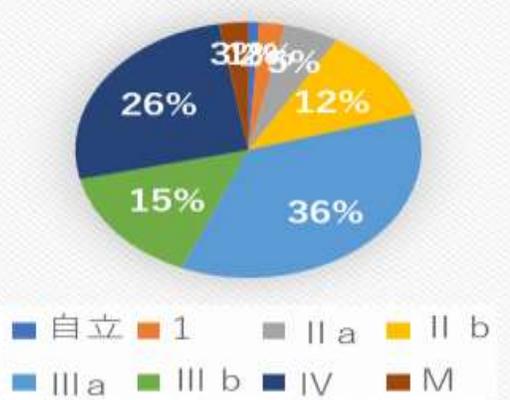
概要 高齢事業 障がい事業 こども事業をあわせ
16施設8グループホームを運営

ある特別養護老人ホームの状況

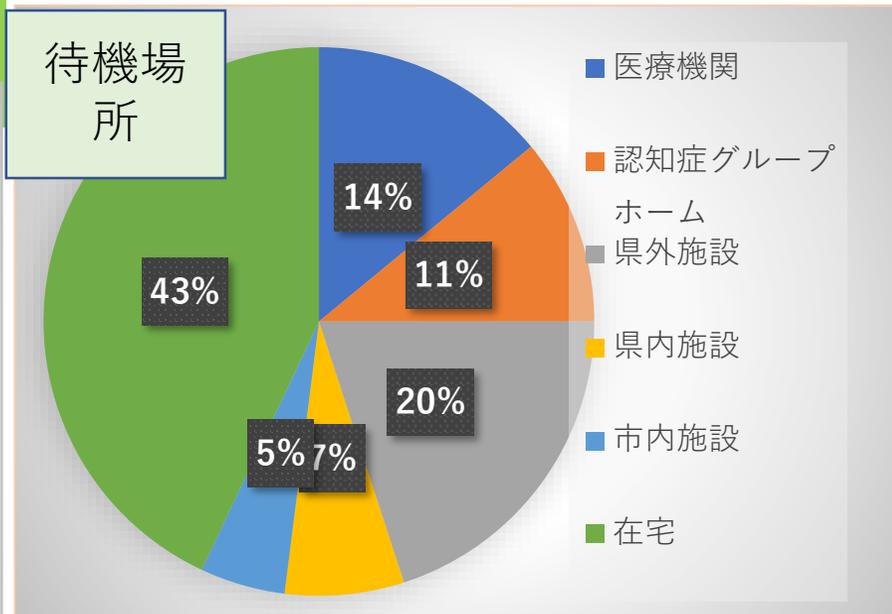
入居者の要介護度の割合状況
(293人)
R3,9月末：平均介護度：4.05



認知症高齢者生活自立度



特養申し込み者の待機状況（上位100人）



要介護	1	2	3	4	5
待機者数	0	2	42	42	14

医療的ケア内容

- インシュリン注射
- フォーレ管理
- 酸素療法
- 喀痰吸引
- 膀胱ろう
- 胃ろう・経鼻経管栄養
- 人工透析

- 上位待機者100人中 独居者14人
- うち 在宅待機3人 在宅以外11人
- 独居者は軽度の状態で申し込みを行い在宅以外で待機する傾向にある。

上位待機者の内半数が申し込み理由に認知症による周辺症状への対応の苦慮を挙げている。

A特養待機者数R3.9月 404人 →R4.1月 372人

法人内特養の医療的ケアの受け入れ

受け入れ状況

- 点滴
- 経鼻経管栄養
- 褥瘡処置
- 胃ろう 腸ろう管理
- カテーテル管理
- 喀痰吸引
- 人工膀胱 肛門管理
- 疼痛管理（麻薬管理）
- インスリン注射

受け入れ困難

- 中心静脈栄養管理
- 気管切開のケア
- 透析管理
- レスピレータ

看取りの状況（退去者数と場所）

過去5年間 入居定員：261人

退去の場所	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
施設	55	52	48	92	60
医療機関等	20	16	19	15	16

医療機関で看取られるケースとして体調不良で入院し、そのまま回復せず 最期を迎える場合が多い。積極的な治療を望む家族は極限ら得たケース。

入居時の終末期の意向の確認内容

口から食事が摂れなくなったらどうしたいか→経管栄養は希望せず、最期まで口から食べることを望み自然に委ねたい。

最期を迎えたい場所はどこか→施設

終末期を迎える状態になったらどうしたいか→積極的な治療は望まず施設で自然にまかせたい

家族の意向は不安定 紆余曲折し最期を迎える。

職員による看取りケアの振り返り

- ・ 終末期ケアの知識不足から不安
- ・ 後悔と自責の念（入居者の担当者として）
- ・ 家族とのコミュニケーションの取り方の工夫
- ・ 業務と並行し終末ケアに取り組むストレス

	2016年	2020年
在日数（入居日～退去日まで）	1293.87日	1230.61日
退去時の平均年齢	89.78歳	90.4歳

入居者やスタッフが安心して看取りを迎えるために

- 1** 職員の人員体制の確保と研修の機会の確保
- 2** 嘱託医師や家族・スタッフの情報共有と連携
- 3** 本人の意思を尊重するために元気なうちにAPC（人生会議）の場面を在宅で持ち、入居した際にもその意向を引継ぐ
- 4** 意思の再確認を繰り返しながら、その時々に変化する本人・家族の気持ちを尊重し、さりげなくサポート。

介護・看護職員状況

5 特養		2017	2021
介護職数	常勤	121	115
	パート	19	22
新卒採用	高卒	2	1
	専門卒	8	5 (4)
	大卒	3	1

夜勤体制：22:00～7:00
介護職員1人から1.5人配置

特養タイプ	部屋	夜勤職員の入居者の割合	日中 常勤と入居者の割合
ユニット型	個室	1人：18～24	2～3人：10～12
従来型	多床室 4人	1.5人：32～36	6～8人：32～36

看護職員 夜間オンコール体制 18:00～

	2016	2020	
常勤者数	16	13	各施設共に 看護師2人が 365日の夜間 を受け持つ 状況が続い ている。
パート数	24	28	
特養（定員29人以下） 常勤数	2	2	
特養（定員30人以上） 常勤者数	3	2	

- ・特養の職員は入居者の365日・24時間を途切れることなく支えている。だから終の棲家となり、安心して看取りを託すことができる。
- ・しかし、年々介護看護職員数は減っており、現場は厳しい人員配置でケアに向き合っている。
- ・今後も職員数が減少すれば、現在の特養の規模や機能の見直しを検討せざるを得ない。

介護・看護人員体制の課題

- 1 慢性的な介護人材不足
介護職員の高齢化
職員間の学びの場面の減少
業務過多による心身の疲労
- 2 看護職員（夜間オンコールOK）人材不足
常勤看護師の負担増
- 3 異業種からの転職
地域で介護福祉士の資格取得につながる研修



ご清聴ありがとうございました。